



相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会
相双COCOROニュースなごみ

第2号 H24年5月吉日 隔月発行
発行元 相馬広域こころのケアセンターなごみ編集部

2012年

新年度がスタートしました



若葉が薫る頃となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

日頃より、NPO 法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会へのご支援を、心よりお礼申し上げます。皆様のご支援を賜り、1月からスタートさせた相馬広域こころのケアセンターなごみも、早4ヶ月経ちました。4月より、新たに臨床心理士1名・精神保健福祉士1名・保健師2名・事務兼相談員2名の合計6名を迎え、それぞれの専門分野を活かしながら、アウトリーチ推進事業・方部こころのケアセンター事業等の活動の幅を広げております。

第2回目の会報では、応急仮設住宅へのサロン活動、アウトリーチ、個別訪問、相談、相双地方精神科医療保健福祉の現状報告、スタッフ全員で行う勉強会やカンファレンス等の活動の様子をはじめ、スタッフの紹介も皆様にお知らせしたいと思っております。

相双地方における精神科医療保健福祉の復興のため、スタッフ一同努力を重ね継続した支援ができるよう頑張っていく予定です。

これからも、皆様のご支援・ご指導をよろしくお願い致します。



写真：4月13日、理事長・丹羽眞一先生の福島県立医科大学ご退官お祝いに、なごみロゴ入りのジャンパーをプレゼントし、記念撮影をしました。



新年度を迎えて 大川貴子副理事よりご挨拶



なかなか桜前線が北上せず、開花を今か今かと待ちわびていましたら、ある日不意打ちをかけられたように町中が桃色に染まり、そして瞬く間に若草色へと変わっていきました。私は、福島で14回目の春を迎えましたが、こんなに開花が遅かったのは初めてではないかと思っております。

と書きながらも、昨年の桜がどうであったのか、どうしても思い出せずにいます。福島市から相馬市につながる国道115号線から見渡せる山々にも、春を伝える花が色を添えますが、昨年4月初旬から何往復もしていたはずなのに、記憶がありません。

皆様には、今年の桜はどのように映りましたでしょうか。また、昨年の桜は覚えていらっしゃるでしょうか。そして、去年の今頃は何をされ、どんな思いで過ごされておりましたでしょうか。

去年の今頃、私は日々の活動を滞りなく行っていくことに必死で、先のことなどほとんど考えていなかったように思います。少なくとも、NPO 法人が立ち上がり、「相馬広域こころのケアセンターなごみ」を運営するようになるとは夢にも考えていませんでした。そんなセンターですが、新年度を迎えてスタッフが12名揃い、より充実した活動が展開できるようになりました。

今振り返ると激動の1年ではありましたが、変わらないと思えることもあります。それは、全国の皆さまからの温かなご支援です。去年の今頃は、本当に多くの方々相馬に駆け付け、支援活動に従事して下さいました。

そして現在、本法人の会員となって下さる皆様に支えられて、私たちの活動は成り立っています。より多くの方に会員となって頂くことを願うと同時に、本法人の会員として未長く支援を続けていこうと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

浪江町の住民の思いと教訓

3月24日(土曜日)、震災前、浪江町に住んでいたなごみの職員の佐藤照美さんの生活用品の持ち出しのため警戒区域内に入りました。立ち入りの前後には、南相馬市の山腹にある馬事公苑(馬術訓練に使われる施設)を利用して作られた施設に立ち寄り、手続きを済ませる必要がありました。その後、無線機、防護服、手袋などの装備品、許可書が手渡され警戒区域に立ち入ることが可能になります。

浪江町の海岸によって立ち寄ると、福島原子力発電所の煙突が遠くに見え、そしてまだ片付けられていないガレキの横に犠牲者へ手向けられた花束が同じ空間に存在していました。浪江町の住民は、水素爆発ののち避難を余儀なくされた地域ですが、その住民のほとんどは一時的な避難であると思ひ込み、着の身着のまま避難したと聞きました。津波が押し寄せた直後、押し流されたが意識はあるにも関わらず助けることができず冷たい海水につかたまま亡くなった命もあったと思います。きっと原発事故がなければ助けられたであろう命のことを思うと胸が痛みました。

警戒区域に住む住民にとって、「そこにあるのに暮らせない、戻れない、割りきれない、故郷にもどれない」つらさは耐え難いものであるといえます。その一方、故郷を捨てて新しい一歩を踏みだそうとする住民も一生その選択肢が正しいのか後悔の念に駆られるのではないかと思います。この一年で住民は、風評被害、避難生活、義捐金の配分、東電の補償金、除染の見通し、学校の閉鎖、失業など、原発事故が起こした生活への不安に振り回されてきました。そして、住民同士の生活格差や不公平感などの感情的な格差がこれからもあり続けていくでしょう。誰が得か損かという問題ではなく、将来に目を向け、「ここに安心して住みたい」、子供たちが「将来住んでみたい」地域作りを考えることが一番大事なことはないかと思います。

(文責・米倉)

写真：現在の浪江町の様子



平成24年度 つくる会 会員募集！！

「相双に新しい精神医療保健福祉システムをつくる会」(以下つくる会)では、大震災と原発事故のために崩壊した相双地域の精神科保健医療の復興・新生に貢献するために「つくる会」をNPO法人化しました。保健サービス機関として「相馬広域こころのケアセンターなごみ」を開所して地域保健サービス事業に取り組んでいます。

会員の申し込み方法

本会の趣旨に賛同し入会していただく正会員・賛助会員を募集致します。

1. 正会員 10,000円
2. 賛助会員 3,000円

申し込み方法

- ① 正会員または賛助会員・氏名・住所・所属先・職業・電話番号・メールアドレスを明記の上、下記住所に郵送またはFAXでお申込み下さい。
お振込み先 東邦銀行 相馬支店 普通預金
口座番号：1044879
口座名義：特定非営利活動法人
相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会
理事長 丹羽真一
- ② 以下のホームページアドレスから申し込むこともできます。
<http://soso-cocoro.jp/>

こころのケアセンターなごみ
ホームページ開設！

<http://nagomi.soso-cocoro.jp/>

皆様のアクセスを
心よりお待ちしております



こころのケアセンターなごみ 相馬事務所
〒976-0016
福島県相馬市沖ノ内1丁目2-8
電話 0244-26-9753
FAX 0244-26-9739
担当 佐藤 里美・大谷 廉
アドレス office@soso-cocoro.jp

※会員になってくださった方には、定期的に会報や現地の情報を送らせていただきます。是非ご検討下さい。

なごみスタッフ紹介①



センター長・看護師
米倉 一磨

何よりも、スタッフが自ら考える能力を身に付け、チーム全体が育つ職場作りを目指しています。



看護師・社会福祉士
廣田 信幸

震災から1年過ぎ、変化するニーズと取り残されたニーズがあります。住民の傍の目線で、丁寧な活動を続けたいと思います。



事業部長・看護師
佐藤 照美

毎日、初めての経験を味わっています。“その方の望む暮らし”を一緒に考え、実現していきたいと思っています。



事務長・相談員
大谷 廉

地元での認知度が高まってきました。良い支援活動ができるよう働きやすい環境を整えていきたいと思っています。



作業療法士
西内 実菜

サロン活動に行くと個々の復興の差を目の当たりにします。「みんなで頑張る」から「一人一人に寄り添う姿勢」を心がけたいと思う今日この頃です。



事務・保育士・介護福祉士
佐藤 里美

土曜日の「ちょっとここでひとやすみの会」では、親子や利用者の方が安心して過ごせる環境づくりを目指します。

事務長のつぶやき

フジコ・ヘミングのコンサートに行ってきました。数年前にNHKの番組で紹介された、フジコさんがドイツに留学し、デビューのコンサートで突然聴力を失うシーンを見たときは涙が止まりませんでした。番組をきっかけにコンサートに足を運ぶようになりました。彼女の生演奏はそれまで音楽に関心がなかった僕にとって衝撃的でした。ラ・カンパネラやテンペストを聴いた時は涙がでてきました。また彼女は、たびたび演奏を間違えることでも知られています。人間は間違えるものだからといえます。いつも感じるのですが、演奏の素晴らしさは、技術を超えた何かがあるようにしか思えません。その後2年前の沖縄旅行で知り合った方を通じて、楽屋や懇親会で直接お会いするきっかけにも恵まれました。以降、フジコさんのコンサートが無趣味の僕にとって唯一の楽しみになっています。

編集後記

四月中旬、つもより遅い開花ではありましたが、相馬も桜が満開になりました。相馬の花見の名所である馬陵公園も、桜の開花と共に、たくさんのお見物客が訪れていました。会報第二号はいかがでしたでしょうか。このころのケアセンターなごみも、スタッフ十二名になり、より一層明るくなりました。これから、継続した支援を行うことが出来るよう、スタッフ一同頑張っていきたいと思っております。

菜摘

